

2025年2月2日

「主の輝き」

マタイによる福音書 17:1-9

早川 真牧師

今朝の個所で、イエスの顔は太陽のように輝いていたとあります。太陽は私たちの住む世界になくってはならないものです。太陽の光がなければ、また熱がなければ、私たちは生きていくことができません。しかし太陽は、直接見ることはできません。直接見ようとするとそのあまりの輝きの強さに目を傷めてしまいます。しかしその太陽の反射である月は直接見ることができます。

9節に、『イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。』とあります。この時イエスの輝きはまだ隠されていた必要がありました。なぜならイエスはこれから全ての人の罪を背負うため、人として十字架にかけられる必要があったからです。もし神としてのキリストの輝きが言い広められたらその使命を全うすることができない可能性があったことと思います。そのため十字架にかかり、死んで葬られ、復活する時まではこのことを誰にも話してはならないと言われたのだと思います。そして復活した後、はじめて弟子たちはこのことを語り伝えました。その時もうキリストは天に挙げられていましたが、今度はキリストは天から太陽のように弟子たちを照らし、その反射する光によって世を照らされました。

やがて私たちも地上の生涯を終えることとなります。しかしキリストを信じる者は死後復活し、新しい霊の体を与えられると聖書に約束されています。その新しい体でキリストの輝きを直接に見ることになるその時まで、地上にあって主の輝きを反射する者として、主と共に歩んでまいりたいと思います。